

東日本大震災・原子力災害伝承館

The Great East Japan Earthquake
and Nuclear Disaster Memorial Museum

建築概要：主要用途 main use : 博物館 museum
敷地面積 site area : 28,178.48㎡
建築面積 building area : 3,536.18㎡
延床面積 total floor area : 5,256.56㎡
掲載誌：新建築2020年9月号, G A JAPAN 166号



俯瞰 aerial view



東側外観 view from east

コンセプト concept

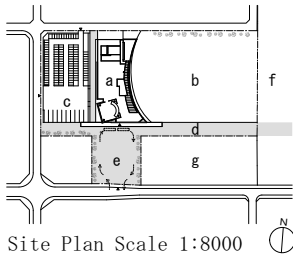
福島は、2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震、津波、そして原子力災害という未曾有の複合災害を経験した。この建築のプログラムは、その貴重な資料を収集・保存・研究・研修・展示することが主な目的である。この災害の教訓は「万が一と言われることでも起こりうる」ことである。教訓を後世に伝える意味も込め、現物資料の収蔵庫・資料展示室・サーバー室は2階に計画した。更に、電源設備は屋上に配置し、来館者への原子力災害の説明と建物の構成に関連性を持たせた。海と福島県復興祈念公園とアーカイブ広場は平行に連続し、エントランスホール・2階展示ギャラリー・屋上の海のテラスは雛壇状に断面計画され、海との関係に重点を置いた。展示のプログラムは、円形ホールのプロローグ・シアターの映像から始まる。映写終了後、円形スロープに導かれ、2階現物資料展示室へ移動する。途中、三角形のアルコーブL.B（ライトベイ）にて小グループの活動や、家族間の会話ができる。円形ホールのもう一つの機能として、語り部により、複合災害の経験と教訓を肉声で聞くことが計画されている。エントランスホールと海のテラスでは、複合災害に関係する場所や方向を指さしながら、話すことができる。東日本大震災から既に9年ほどが経過した。記憶の風化を防ぐために、この建築が大きな役割を果たし、経験と教訓が確実に後世に伝えられることを願っている。



北側外観 view from north



南側外観 view from south

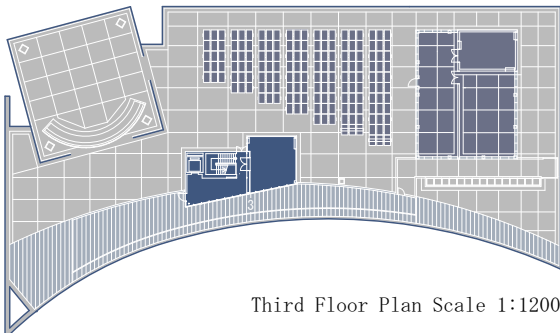


- a 東日本大震災・原子力災害伝承館
- b アーカイブ広場
- c 駐車場
- d 東西アクティビティバス
- e メイアプローチ・語り部の広場
- f 復興記念公園
- g 双葉町産業交流センター

Site Plan Scale 1:8000

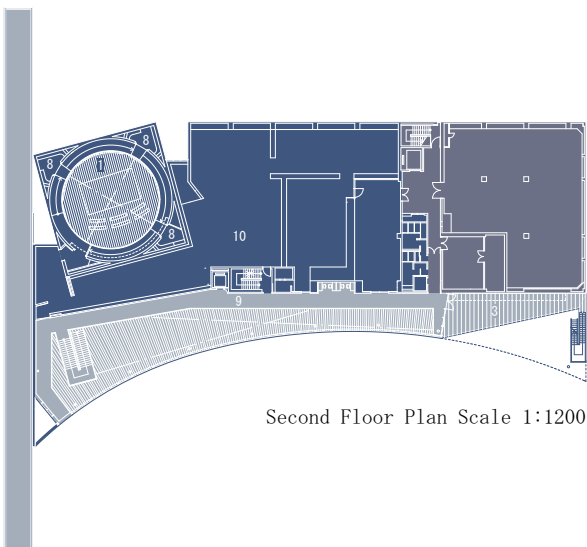


エントランスホール entrance hall

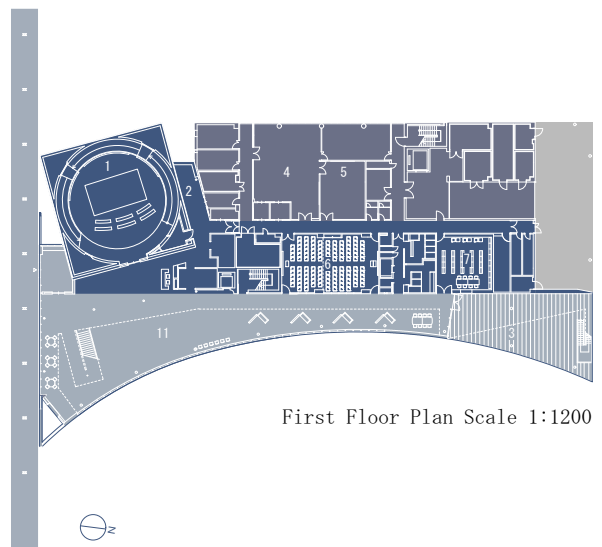


Third Floor Plan Scale 1:1200

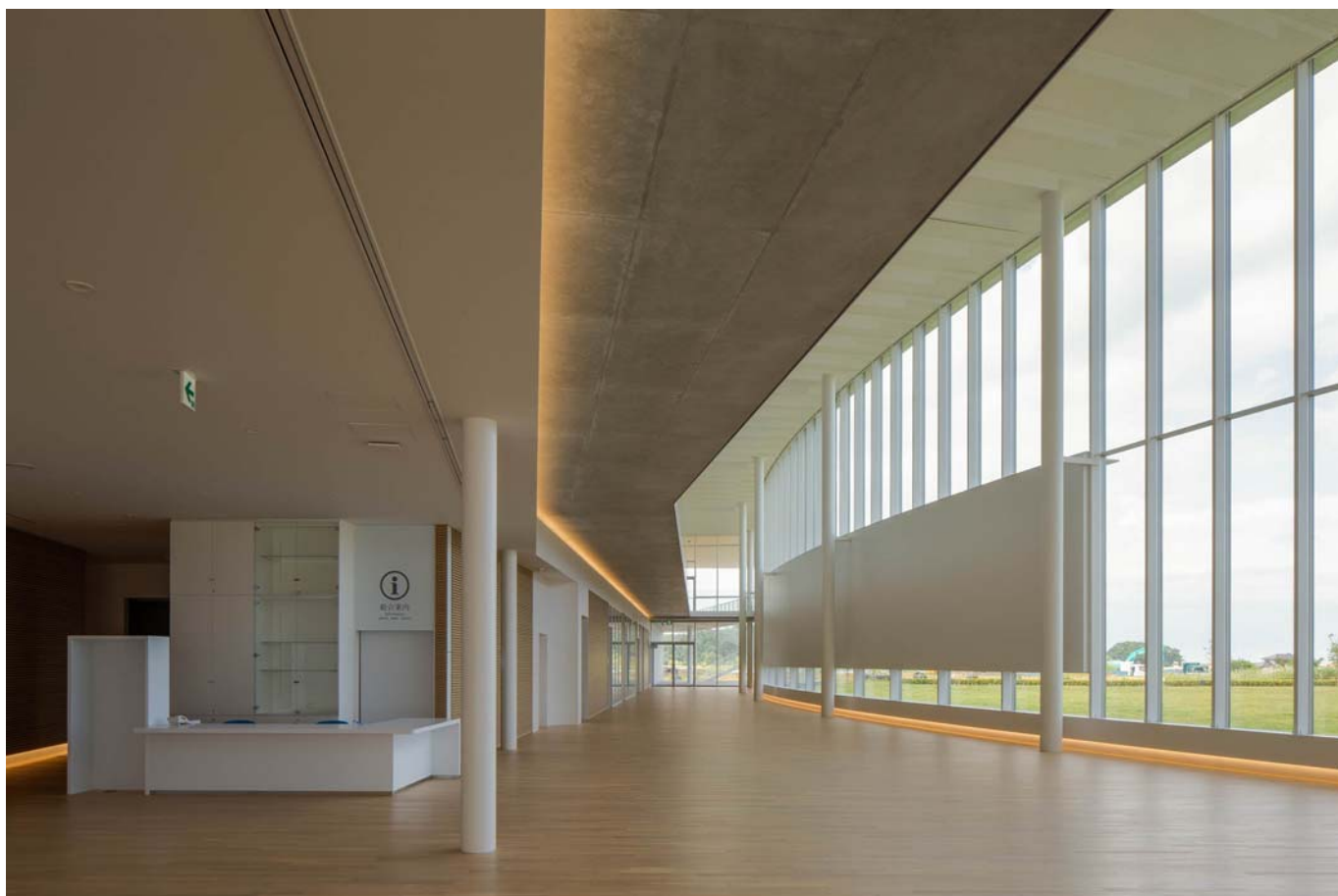
- 1 プロローグ prologue
- 2 ラウンジ lounge
- 3 海のテラス ocean observation deck
- 4 事務 office room
- 5 研究 laboratory
- 6 研修 training room
- 7 資料閲覧室 reading room
- 8 ライトベイ light bay
- 9 展示ギャラリー gallery
- 10 展示 exhibition room
- 11 企画展示 special exhibition room
- 12 エントランスホール entrance hall



Second Floor Plan Scale 1:1200



First Floor Plan Scale 1:1200



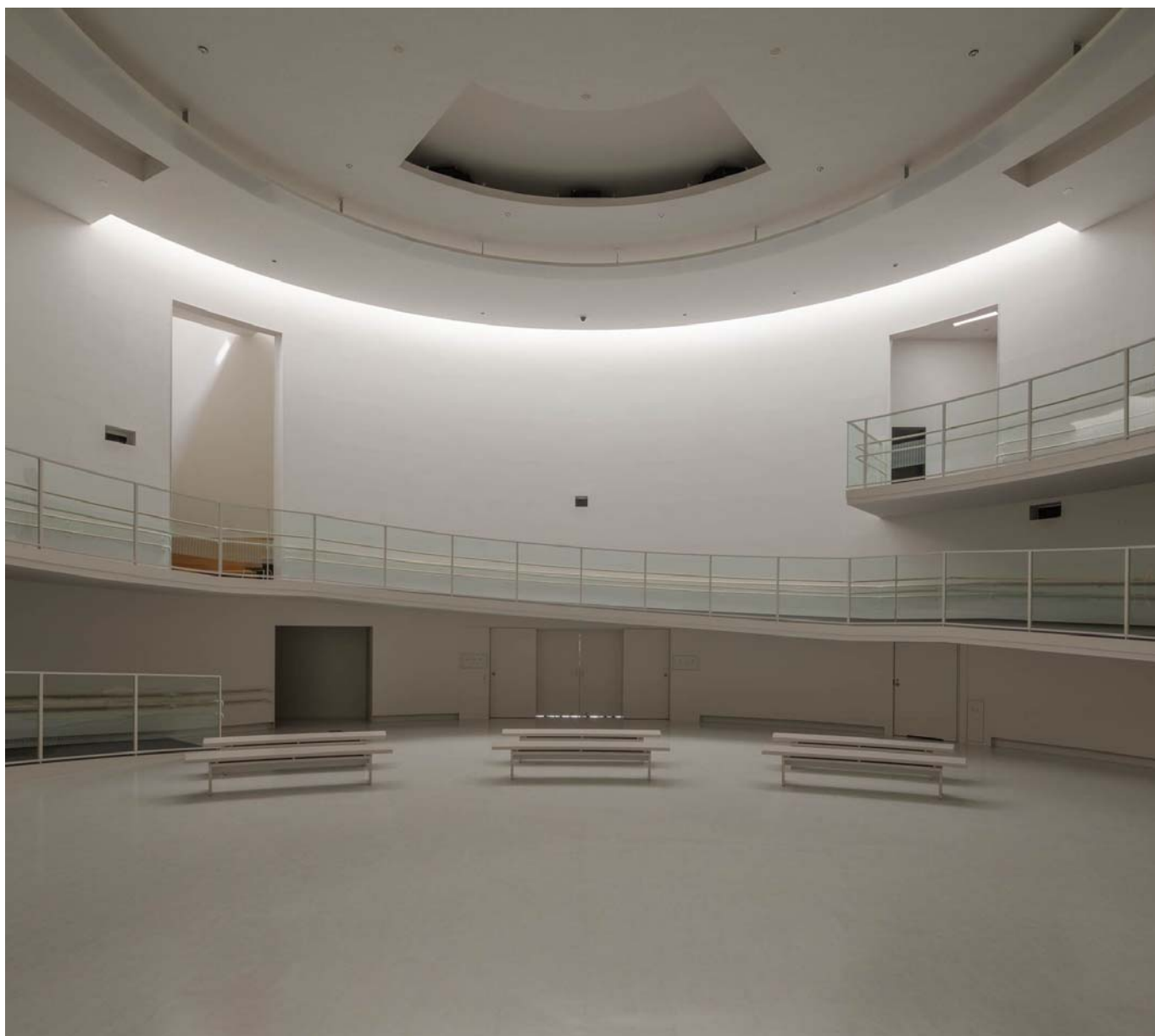
エントランスホール entrance hall



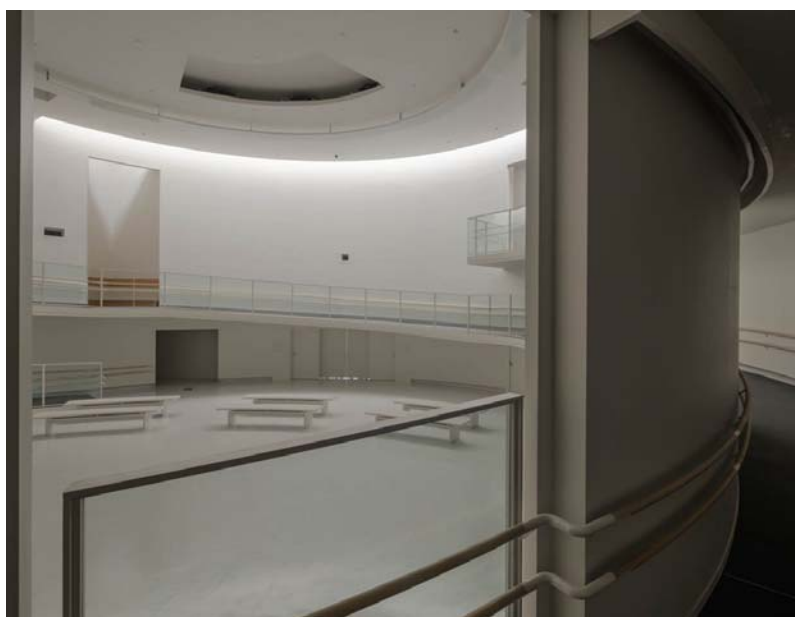
南東側外観 view from southeast



海のテラスをみる view toward ocean observation deck



プロローグ prologue



プロローグ prologue



トップライト toplight